平成26年第10回東大和市議会厚生文教委員会記録

平成26年11月13日（木曜日）

出席委員（6名）

委員長	中間	建二	君	副委員長	西川	洋一	君
委員	大后	治雄	君	委員	中村	庄一郎	君
委員	東口	正美	君	委員	床鍋	義博	君

欠席委員（1名）

委員 関田 貢 君

委員外議員（1名）

議長 尾崎 信夫 君

議会事務局職員（4名）

事務局長	関田	新一	君	事務局次長	長島	孝夫	君
議事係長	尾崎	潔	君	主事	須藤	孝桜	君

出席説明員（なし）

会議に付した案件

（1）所管事務調査

東大和市内保育園及び学童保育所の待機児の現状と課題について

午前 9時33分 開議

○委員長（中間建二君） ただいまから平成26年第10回東大和市議会厚生文教委員会を開会いたします。

○委員長（中間建二君） 所管事務調査 東大和市内保育園及び学童保育所の待機児の現状と課題について、本件を議題に供します。

本所管事務調査につきましては、次回、第4回市議会定例会の会期中の委員会におきまして、報告書の内容を確定し、定例会最終日に委員長報告を行いたいと考えております。つきましては、本日は、先日視察を行いました市内の放課後子ども教室、また江戸川区のすくすくスクールについて、皆様から御感想を述べていただきますとともに、お手元に御配付してございます報告書（案）について、御意見をいただきたいと考えております。

また、本日皆様からいただきました御意見を踏まえ、委員長において報告書の最終案を作成し、次回の委員会でお示しをしたいと考えておりますので、よろしくお祈りを申し上げます。

それでは初めに、市内の放課後子ども教室と江戸川区のすくすくスクールにつきまして、視察されました御感想を御意見のある方は御発言をいただきたいと思っております。

○委員（西川洋一君） 前回、江戸川区のほうはちょっと体調を崩して行けませんでした、申しわけありませんでした。

市内の放課後子ども教室ですけど、私は第一印象としては、そこに協力している父母、父母でいいのかな、父母の皆さんが一生懸命やっていて、特にあれは七小でしたか、七小に行った折は、そうした方々が非常に努力しているなど。ですから教室をやるに当たっては、そういう人たちをどれだけ全体として協力をお願いできるか、その辺が非常に大事になってくるかなど。全校にそれを積極的に進めていく上では、そうした取り組みがかなりかなめになるかなというふうには感じるところです、まずは。

○委員（中村庄一郎君） まず、市内の七小初め、七小と二小でしたっけ、拝見させていただきました。今西川委員さんが言われたように、皆さん本当地域の方のボランティアの非常に一生懸命、いろんな試行錯誤しながらいろんな工夫もあって、非常に子供たちにとって非常にいいあれだったなと思っております。

ただ1つだけ、なかなか開催の日程ですとか、あとやっぱり子供たちのそのときの人数のなんか数値なんかも見ますとね、なかなかいま少し伸び悩みのところもあるようなこともあるようなので、できれば、例えばその地域の個人的な部分じゃなくて、いろんな団体か何かでも、やっぱりボランティア活動されている団体なんかもいっぱいあるようなので、そういうところなんかの発展性として、そういうところなんかにお願いというか、そういうところもどうなのかなど。実際に私もそういう話をちょっとある団体にしたら、いいですよ。例えばお茶を入れるのとか、お花を生けるのとか、そんなのはうちのほうの団体でも、ぜひそういうところへ協力させてもらってもいいですよなんていう団体もいらっしゃるようなので、そういう展開もいいのかなというふうに思いました。

あと、江戸川区でしたっけ。こちらは、やはり見させてもらって、非常に新しい試みのいろんな対策ができていて、それが今すごくいい方向にしているということが1つで、三鷹なんかも前に見させてもらいましたが、やはり首長、首長たる者が教育に対してどれだけのやはり意識があるかなどいうのをすごく痛切に感じました。やはり各学校単位、また各地域単位で、子供たちの見守りも含めて、教育の一環としてやはりそれなりの政策を持ってできているというところが、やはりそこで信頼を置いて、そこに任せるといったところの

やっぱり教育がちゃんとしっかりしているのかなというふうに感じました。

やはりそういうものがないと、やはりそこで働き手としては、やはりそれなりの自信も持てないし、働いていく楽しみというかな、そういうのも子供たちってよくわかると思うんですよね。やはり伝える側が楽しくなければ、受ける側というのはすごく敏感に察知しますので、そういうところでは、経営面と言いますかね、そういう部分がやはり首長の指導でしっかりしていると、やっぱりここにあるのかなというふうに思いました。

○委員（床鍋義博君） 江戸川については、今中村委員がおっしゃったように、元教育長である方が区長になったということで、かなり力を入れて、教育問題について力を入れて、最初からそういったことをやりたいという目的があつてすごくやっていたので、当然先進的な事例として全国から視察が来ると。そのことによって、現場の士気が高まるというふうに言ってましたね。そういうことあると思うんですよ。どこかの市がやって、ほかの市がやってるから、じゃうちもそれでやりましょうかという体制ではもう遅くて、逆に制度はどうでもいいんだみたいなことを言っていたことが印象的で、どういうことですかと言ったら、いや、ここから新しい制度を発信するんだと。枠の中でどうやるかじゃなくて、そういうことも取っ払って考えて、子供たちにとって一番いいことは何だろうかと考えたときに、そういう学童だとか、そういったことの省庁で縦で割りますよね、ここは厚生労働省の所管だ、ここは文部科学省の所管だ。そういうことは我々関係ないんだと言ったことがすごく印象的で、実際、そういうことを試みをするによって、内閣府のほうから意見聞かせてくださいとか、視察が実際国のほうから来たりするようなことになっているので、これからの地方自治というのは、やっぱり国を直接動かすような形、それが反映されて国の制度を変えていくというような形になっていくのかなということで、すごく子供のことを学びに行つたんですけれども、何か地方自治のこれからの姿を見たかなという、そういう印象をまず受けたのがあります。

あと現場では、二小、七小行きました。七小に関しては、かなり日数も多いですし、かなり何ていうか、蓄積、これまでの先人たちが行ってきたことが蓄積されて、すごくうまく回っているなという気がすごくしました。もちろん二小に関しても、協力いただいている方々はすごく熱心で、よくやっているなと思つたんですけれども、話を聞いて、問題点はなんですかと投げかけたところ、二小に関しては、やっぱり場所の問題がかなり問題大きかったですね。狭いということと、あと空き教室がほとんどない。確かに、二小ってすごく急に人口がふえて、その影響で子供たちの数もふえているということで、特別教室とかそういったことを、空き教室を利用できるようなところとかがなかなかなかったの、そこはどういった知恵を出していきながらやるのか。また先生によってはという、ちょっと余り口幅ったいような感じの言い方だったんですけれども、何か余り使ってほしくないというような、教室、自分たちの例えば空き教室で、例えばこのクラスは授業で使っていると、備品もあるからそういうのをほかに使ったりするとちょっとというような意見を言う先生もいると。それと同じ疑問を江戸川のところで投げかけたんです。江戸川は専用の確かに教室はあったんですけども、もし仮にそういうことがあったらと言ったら、いや、そういうことを気にする先生はいないんじゃないかなみたいなことを言ったので、やっぱりそういった、何ていうんですかね、文化的なこういうマインドというんですかね、そういったことを共有する必要があるのかなというふうに思いました。

日数のことと場所のこと、そうですね、以上です。

○委員（大后治雄君） 皆さんいろいろとおっしゃっているように、江戸川のほうは、やはり教育長出身の区長だということもあって、やはり教育委員会そのものを、手のうちを知っているというか、そういったところいろいろと押さえられているというか、いろいろとまず先手を打つことが可能だったというところはあるのか

なというふうに思うんですね。

江戸川のほうのいろんな施策拝見しましたけども、何ていうんですか、目新しいというような本来制度のはずなのに、なぜか何か懐かしさを感じるような、何か不思議な感覚があったんですね。こういうことは昔やってたよなというか、特にそういう制度がなくても、こんなこと我々やってたんじゃないかな、子供のころこんな状態だったんじゃないのかなという感じが、印象があります。つまり、制度云々は後追いまいたいもので、やっぱり昔やってた、古きよきというか、何ですかね、いいものはやっぱり後になってもいいものであるということで、それを見直して制度に当てはめているのかなという印象もありまして、そういったところで、やはりいろんなものを見直して、いいものはいいということで取り入れていくということが、重要なのかなというふうに、江戸川のほうの印象はあります。

翻って大和のほうですけれども、確かに皆さんいろいろおっしゃったように、いろんな問題がありまして、なかなか難しい部分はあるかと思えますけれども、やはり子供を主体に考えたときに、やはりいろんな自治体の後追いでいいですからいろんなところをやはり見ていただいて、後追いなら後追いなりによりよいものにしていくというようなことが、やはり重要なのかなというふうに思います。今のところ大和の場合は、何かほかの自治体と比べて突出しているというようなことが残念ながら感じられないところがあるので、逆に言えば、突出してないんだったら、後追いだったらよりよいものを逆に取り入れられるんじゃないのかなというふうにも思いますので、そこを積極的にいろんなところを自治体を見ていただいて、取り入れていっていただきたいなというふうに思いました。とにかくいいものはいいというようなところで、全て古いから悪いとか、新しいからいいとかということじゃなくて、全てのものを排除せずに、いろんなものを見ていただいて、こういうものはよかったんだなというところを、ぜひはっきりと見ていただきたいなというふうに思いました。

以上です。

○委員（東口正美君） ありがとうございます。

すくすくスクールについてですけれども、やっぱりこの運営体制が、しっかりと教育委員会の人たちが真ん中にきちんといるということで、同じ学校という施設を使いながらも、昼間の学校経営、学級経営とこのすくすくスクールのスタッフがきちんと充実していることで、さまざまな考えられるトラブルが防げている、さらにそこに地域の人材の手をかりてということが、この体制がやはりきちんとしていることが大きいのかなというふうに思いました。

すくすくスクールの教室に来ることを帰ってくるというふうにおっしゃっていましたが、子供たちの中でも立て分けがきちんとその辺で、教室からここに帰ってきてランドセルを置いて遊んでいるんだということがきちんとしているのもう一回教室に戻ってどうこうするというよりは、一旦帰った場所でみんなで遊んでいるというところなのかなというふうに感じています。

一方、特に二小で見させていただいた放課後子ども教室には、ランドセル来館の担当のたまたまお知り合いの方が、何というんでしょうか、スタッフというか、いらっしゃいまして、あの子はランドセル来館の子だから私が見ているんだけど、この子は違うのというような非常にわかりづらい中で、安全は守られているんだけど、ちょっと複雑になっているのかな。もちろん、当市が学童保育に力を入れてくださっていること、また苦慮の中でランドセル来館、また放課後子ども教室、力を入れているということもわかっているんですけども、その辺をもう一度、放課後総合プランもできていく中で、私たちもしっかりと注視しながら、一番いい形になっていけばいいかなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（中間建二君） ありがとうございます。

それでは、皆様からそれぞれ御意見をいただきましたので、それをまた踏まえさせていただきたいと考えております。

それでは続きまして、報告書（案）につきまして御意見等がございましたら御発言をお願いいたします。

○委員（西川洋一君） まとめ本当に御苦労さまでした。私としては、全体うまくまとまっているかなというふうに感じているところです。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（中間建二君） それでは、たたき台の案につきまして、皆様からおおむね御賛同ということで御意見を頂戴いたしました。ありがとうございます。

このたたき台案につきましては、先ほど二小、七小の放課後子ども教室、また江戸川区のすくすくスクールについての御感想等もいただきましたので、それを踏まえまして、最終案を次回の委員会までに御提示をさせていただきまして、次回の委員会の中で最終的に取りまとめをさせていただきたいと思っておりますので、御協力のほど、よろしくお願いを申し上げます。

それでは、お諮りいたします。

本日の所管事務調査はこの程度でとどめたいと思っておりますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（中間建二君） 御異議ないものと認め、さよう決めます。

○委員長（中間建二君） これをもって、平成26年第10回東大和市議会厚生文教委員会を散会いたします。

午前 9時49分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 中 間 建 二